

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>ヨルダンにおける青少年の健全な育成  現地スタッフの月例報告書、および青少年への質問表調査結果より、上位目標の達成へ向けた一定の成果が確認できている。  (参照 (3)「達成された効果」)</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) コミュニティ参画プログラム (Community Program, CP)  ①当該事業前期に CP を修了した 14 歳から 18 歳の年長青少年 13 名 (男子 7 名・女子 6 名、以下アドミンユース) に対し、青少年活動の運営に関するトレーニングを行った。本トレーニングを通し、アドミンユースらは主に、庶務業務 (例 登録・出席データ入力、裨益者用バスカード作成)、活動の企画・運営法を学んだ。その間、ジャバルアンマンにあるユースセンターにて日々のクラス運営に従事、また、センター月例行事や幼少年を対象とする 1 ヶ月間の夏期講座の企画を行うなど、実地経験も重ねた。  ②14 歳から 18 歳の青少年 70 名 (男女各 35 名、計画時想定人数 60 名) が、地域における奉仕活動の目的や意義についての講義後、実際にセンター内や近隣地区での清掃活動を企画・実施した。本活動を通しては、地域を取り巻く問題へ注意を促すビラを作成し路上で配布、また、多くの地域住民が訪れる公園に環境整備を謳う張り紙やポイ捨て禁止を促すゴミ箱を設置するなど、地域へ広く活動の場を広げた。</p> <p>(イ) 地方ユースセンターにおける青少年活動の活性化  当該事業前期に実施した能力向上研修に参加した青年高等評議会 (HCY、現地提携機関) の地方ユースセンターのうち、3 センター (Wadi Al Hour, Sakeb, Fuhays) が研修での学びを活かして青少年活動を実践した。本実践前には当団体スタッフがセンターを巡回し、より青少年が主体的に参加できるような計画や予算設計について助言を提供した。併せて、実際の青少年活動をモニタリングし、活動の運営の仕方や青少年に対する接し方についての改善指導を行った。</p> <p>(ウ) ノンフォーマル教育  英語、スポーツ、演劇、音楽、美術、ストーリーの各クラスを週 5 日、一学期三ヶ月制で実施、今回の報告までに第二学期までを開講した (第二学期は 7 月末にて終了)。その間、482 名 (男子 259 名・女子 223 名、計画時想定人数 400 名 [200 名×二学期]) が参加した。クラス内では集団行動上のマナーや協調性についてのルールを設定し、それに基づき各講師が生徒の言動を観察するなど、青少年間の相互理解の促進、および彼らの言動に肯定的変化を促すよう努めた。また、出来上がった作品や青少年らが新たに習得したスキルについては、学期末の成果発表会を通じ、保護者や地域住民に対して披露した (例 英語の詩の朗読、手工芸品の展示、演劇作品および楽曲の披露)。併せて、団体専用および他 WEB サイト (例 ブログ <a href="http://knkjordan.blogspot.com/">http://knkjordan.blogspot.com/</a>) も活用し、クラスの様子やその</p>

	成果を広く発信した。
(3) 達成された効果	<p>(ア) 地域住民による青少年活動運営へ向けた体制整備      当中間報告期間中、週5日のセンター活動日は毎日、アドミニュースらがセンターでの活動運営に携わると共に、七月例行事を2回、企画・実施した。また、CP参加青少年が随時、センター内外での清掃活動を行うと共に、路上キャンペーンを2回、公園での清掃活動を1回、実施した。現地スタッフからの月例報告書によれば、青少年らの活動運営面への関与をさらに強めたことで、責任感や地域に対して貢献しようとする意欲が高まったことがわかった。同時に、センター運営に積極的に参画する彼らの姿を見た地域住民からは、今後も彼らをサポートしながら奉仕活動を継続していくことへの意識が高まったとの声が聞かれた。</p> <p>(イ) 地方ユースセンターにおける青少年活動の活性化      実践活動を行った3つの地方ユースセンター職員に対して行った質問表結果からは、本実践活動を通じてさらに青少年活動実施の経験を積み、そのノウハウが身に着いたとの声が聞かれた。特に、当団体の現地スタッフが直接、活動をモニタリング、その場で助言提供することで、地方ユースセンター職員自身による活動の振り返りが促された、それに基づく活動への反映が速やかに行われたことが評価された。また、同上3センターの活動に参加した青少年からは、今後さらに活動の回数や時間を増やすことを求める声が聞かれるなど、活動への満足感の高まりが確認できた。</p> <p>(ウ) 青少年への教育効果及び相互理解促進      第1学期終了時に実施した質問表結果からは、9割強において新しい知識やスキルを獲得、8割において日常生活での肯定的変化を実感、8割強が異なる国籍や出身地の友人を持つようになったことが確認できた。特に、センターに参加することで、以前は路上で持て余していた時間を自分に役立つ目的のために使えるようになった、学んだことを家族や友人に教えらることで自信がついた、クラスメイトへの接し方を学んだことで他者を敬う気持ちが芽生えた、など、自身の生活や内面における肯定的変化を示す声が多く聞かれた。以上から、センターでの活動が青少年へ教育的な効果を及ぼすと共に、思いやりや異なる国籍や出身地の青少年間の相互理解を深めることに寄与したことがわかった。</p>
(4) 今後の見通し	<p>最終事業期である点を踏まえ、特に現地移管の観点から下記を予定する。</p> <p>(ア) コミュニティ参画プログラム      HCY本部職員、現地スタッフ、および当報告期間中にトレーニングを受けた上述のアドミニュースらによるCP運営委員会(仮称)を設立、事業終了後のCP継続を目指す。当委員会設立に要する文書策定、委員選出、およびHCYへ移譲後の資機材の活用について、HCY本部との協議を緊密に重ねる。さらに、委員会設立後の活動の稼働状況についてフォローアップを継続し、円滑な事業移管を目指す。</p>

	<p>(イ) 地方ユースセンターにおける青少年活動の活性化 地方5センター (Balqa, Kofranja, Manshia, Tafila, Ein Ebleen) における実践活動へのモニタリングおよびフォローアップを継続する。全活動が終了後は、各実践活動の成果について参加センター間で共有、各地方センターが青少年活動実施法についてのノウハウをさらに蓄積する。</p> <p>(ウ) ノンフォーマル教育 残り二学期を開講する間も、参加生徒の内面や言動の肯定的変化をさらに促すよう、協調性や相互理解の助長を目指したクラス運営を徹底する。特に、肯定的変化がより顕著に表れた生徒についてCPへの参加を促すなど、CP運営委員会による活動継続に必要な次世代を担保していく。</p>
--	--